



若い組合員を自治研に巻き込みたい……その1
若い組合員や、初心者を
呼び込む秘訣を教えてください

回答
自治研マイスター

来年二〇二六年秋には、宮城県仙台市で「宮城自治研集会」が行われる予定ですが、その企画を練っている自治研中央推進委員 会においても、次の大会のコンセプトとして「若者・初心者 を巻き込む」というキーワードがクローズアップされています。この時期、自治研の推進にとって、若者の参加を増やすことは極めて大きなテーマだと言えます。

これまで自治研や組合活動に無関心だった若者を巻き込むには、やはり「当事者意識」を持つてもらおうということになります。人は「それは自分のことではない」と思った瞬間に、興味・関心を失ってしまうものです。ですから、もし自治研担当者が、無関心な組合員を巻き込む秘訣があるとすれば、それは彼ら・彼女らに「出番」を与え、主役意識を持つてもら うことが、なによりも大事になります。

あなたの地域の自治研活動に、新しい参加者や若者が少ないと感じたとき、次のようなことを振り返ってみましょう。

「その活動は参加者にとって受け身の活動になっていませんか?」「集会や学習会が次の活動を誘うきっかけづくりになっていますか?」「活動する人のモチベーションをあげるような工夫はありますか?」

この点について、先に紹介した自治研中央推進委員会において、新たに石川県本部から参加されている池上直樹書記次 長が興味深い意見を述べられました。「最近、ある単組が自治 研活動に急に熱心になり始めたことで、周辺の単組に競争意 識のようなものが芽生えている。もしかして自治研活動のよ い活性化につながるかもしれない。活動の推進にこうした競 争心をうまく活用できないかと考えています。」

こうしたことも、これまではなかなか考えつかなかった好 発想ではないでしょうか。 運動はちよつとしたことがきっかけで進むものです。その 気運を捉え、先人観なく新たな参加者を受け入れていくとい う柔軟な姿勢が、今、推進側にも求められています。

事例
「競争心」を活動の源に
オリジナルを超えるという!」

——これまでの自治研との関わりは?

現在は石川県本部の自治研担当ですが、 出身単組の野々市市では、私が入庁して 五年目ぐらいまでは毎年、地域の公民館 のホールを貸し切って、環境と平和をテ ーマに住民を巻き込んだ「自治研祭」を 盛大に行っていました。近年はその企画 自体も、自治研に対する元気もなくなっ ていましたが、二〇一三年、野々市市を 「歩き目録」で再発見する「まち歩き」 イベントを市民観光ボランティアの皆さま の協力を得、自治研として行いました。 庁舎内では年々、市外在任職員の割合が 増え、勤務地である「野々市市」という 地域とのつながりが薄くなってきている ように思われ、「自分たちが働く野々市市 のことを知ろう」という思いからです。 ——若い組合員の意識はどうですか? 若い組合員は組合に加入してくれても

自治研活動の実態があまりないのが実情 です。ですから私たち中堅層が長い公務 員生活中に忘れてしまった「市民感覚」を 若い世代が持っているうちに、自治研活 動へ呼び込み、より住民である市民に寄 り添った活動をすべきだと思っています。 幸い石川県内では近年、七尾市で若い 組合員が自治研にがんばって取り組ん でくれており、全国集会でレポート発表を するなど大きく活躍しています。 ——せっかく芽生えた活動を、他の団体 にも広げるための「競争心」ですね? そうなんです!実は佐賀自治研の時に 自信满满で持ち込んだ私の「まち歩き」 のレポートが七尾市の素晴らしい取り組 みの発表で一気に霞んでしまいその発表 を観ながら、野々市市でも焦りを感じて いました(笑)。 自治研には特許や許可制はとくにない と思うので、集会やこの『月刊自治研』 で「これは!」と思われる企画はどんど ん自らの単組に取り込んではどうでしょ

う。そしてオリジナルを超える企画を競 争心のなかから積み上げ、結果として胸 を張れるほど自信のある活動をなし得た とき、その活動が最終的に働く地域の住 民に還元されるという自治研の本質にた どり着く……このサイクルがまずは石川 県内で、そして全国でも確立できればな と思っています。



回答者● 石川県自治研中央推進委員 池上直樹さん



石川県内での取り組みが また、他県へと どんどん広がっていくと 楽しみだワン。